

## 特集 1一地域の居場所づくりからーその2

～小平はぐくみプロジェクト（通称“こだはぐ”）～

前号に続き、今月号では市内東側で新たに始まった若い世代向けの居場所として、5月21日、こだはぐカフェを取材しました。

### ■きっかけは

代表の橋本さんは小平に住んで16年。インターネットが今ほど普及していなかった2001～2010年に「らいおんキッズ」という子育てインターネットサークルのサイト運営やそのオフ会を企画していた彼女は、そこで出会う母親たちの不安や悩みを知り、自分に出来る支援はないかと考え始めたそうです。そして一昨年、NPO法人 Mystyle@こだいら主催のコミュニティ・ビジネス起業講座で出会った宮井桂子さん、西山みのさんと意気投合し、「産前産後ママの心と体を癒したい。支えとなり、助けに入る仕組みを作りたい。」とグループ設立に向けて動き出しました。橋本さん自身はセラピスト、副代表の宮井さんはヨガインストラクター、西山さんは薬膳セラピストや国際中医薬膳師という資格を持っています。2013年11月に発足し、その後メンバーが増えて現在は10名で活動しています。

### ■ “こだはぐ”が育みたいもの

「はぐくみ」には、「育む」と「Hug」の2つの意味と、「関わる人や思いを温め、大切にしてはぐくみ発展させていきたい”



という願いが込められています。“こだはぐ”が育みたいものは、「家族の絆、夢、コミュニティ」の3つ。産前産後の女性の心と体に関する講座や、夫婦間のパートナーシップ、子育てに関する講座を開催することで「家族の絆」を、母親のキャリアやスキルを活かせる場を提供することで「夢」を、母親や父親同士の交流の場を提供したり、産前産後ファミリーを対象にした“子育て応援カード”を発行することで、地域社会に

15年前（2001年）に子育て広場の活動を始めた先輩格の「きらら」や、前号で紹介した多世代交流の居場所「ほっとスペース・さつき」などとの連携もすでに行われているようです。花小金井方面は、ここ数年宅地開発に伴う若い世代の流入スピードが増し、今後も大規模開発が続く地域。そんな小平の時流も見据えた“こだはぐ”的今後の活動に注目していきたいと思います。（取材：伊藤、田原）

温かい子育て支援のネットワーク作り（＝「コミュニティ」）を育みたいと考えています。

昨年度は市の市民活動支援公募事業に採択され、4回のこだはぐカフェや子育て応援券事業を展開しました。

### ■こだはぐカフェ@鈴木公民館

そして今年、副代表の宮井さんが以前からヨガサークルで利用していた鈴木公民館で、4月から月1～2回、ママが元気になる広場として“こだはぐカフェ”的広場事業をスタートさせました。子どもと気兼ねなくお昼ごはんを食べるところが欲しいという声に応え、調理室も兼ねた学習室で10:00～15:00までオープンしています。（日によって時間帯が変わります。）市内だけでなく西東京市から来た人もいたそうです。部屋の真ん中には、子ども達が遊べるマット敷きのスペースがあり、お茶とお菓子がセッティングされていて若い感性を感じました。取材した日は、香りのお守りサシェ作りにお母さんたちが集まっていました。6月からは、「趣味や特技を活かしたい！」とチャレンジ講師に登録しているお母さんが講師となって体験講座を開催しています。チャレンジ講師は、随時募集中のこと。

### ■子育て応援カード事業

今年度は「西武信金街づくり活動助成金」を得て、市内在住の5000世帯に応援カードを配布予定。去年より使い勝手よく改良中とのことでした。



**小平はぐくみプロジェクト “こだはぐ”**  
ブログ：<http://kodahug.blog.fc2.com/>  
HP：<http://kodahug.com/>  
Facebook：<https://www.facebook.com/kodahug>  
お問合せ：[contact@kodahug.com](mailto:contact@kodahug.com)

## 特集 2 企業の社会貢献活動 三菱電機ビルテクノサービス(株)と 「絵画展 口と足で表現する世界の芸術家たち」

同社はエレベーターやエスカレーターなどビル設備管理を本業とする会社ですが、「そのような企業がなぜ絵画展を?」という素朴な疑問を持ちながら、5月15日(金)絵画展を訪ね、担当者にお話を伺いました。

### ■そもそものきっかけは

作品との出会いは1991年。小平市花小金井にある同社研修センターに新築した宿泊施設に展示する絵画を捜していた時、「口と足で描く芸術家協会」の画家が描いた絵を購入したのが始まりでした。研修センターに集った社員達がその絵に感動し、近隣の方々にもぜひ鑑賞してほしいという思いから、1992年社員が手作りで絵画展を開催しました。

### ■社員のアイデアが会社

の活動に研修で全国から集まった社員がそれぞれの地元の人たちにも見てもらいたいと、1994年からは支社がある所在地でも開催。展示する絵画は、同社が所有する約800点の中から約50点を選んで全国巡回していく(自社

施設の小平では80点)、今年3月までの23年間で全国235ヶ所で開催し、延べ約65万人が鑑賞したそうです。絵画展の運営は、社員が有給休暇を取って家族も巻き込んでボランティアで行っているとのこと。とはいっても、絵画搬送や会場設営等の運営諸経費はそれなりにかかるものです。バブル崩壊やリーマン・ショックなど厳しい経済状況の中、真っ先に削られそうなこの活動を継続してきた経営陣の決断には頭が下がります。



### ■絵の素晴らしさ

「地域の人にも観てもらいたい」という社員の思いは、飾られた数々の絵をひと目見て理解できました。絵の



横には画家のプロフィールと創作風景の写真が掲示されています。生まれつきや若いころのスポーツ中の事故などの運命を背負った方々が、絵という表現方法に出会い、芸術家協会の奨学金制度を得て技術を磨き、生きる勇気を得てきたそれぞれの人生に思いを馳せた時、絵が一層の輝きを放って見えました。

### ■地域への社会貢献

取材した日は小平五小5年生の社会科見学があり、画家の森田真千子さん(大阪在住)が解説を交えて実演していました。



「試しに口で描いてみて!」と促された子どもたちは、口を加えて四苦八苦していました。

「絵を描く上で大事なことは?」という子どもの間に、森田さんは「あきらめないこと」と答えていたのが印象的でした。この出会いは子どもたちの心に大きなモノを残したことでしょう。



森田さんが実演で描いた色紙

絵画展は、この後6月から、鳥取、愛媛、岐阜など全国10ヶ所程度を1年かけて巡回します。また同社ウェブサイト内の「MELTEC GALLERY(メルテック ギャラリー)」でも観ることができます。

URL <http://www.meltec.co.jp/gallery/> (取材&文責:藤原、田原)